

主張

情報モラル教育とメディアの管理

新沼潔



昭和の終りに採用され、まもなく定年退職を迎える私たちの世代。教員としてのスターを切った頃、学級通信や定期テストは全て手書きでした。それからしばらくして、平成を迎える頃からワードプロセッサーが登場し、みんなこぞってそちらにシフトしていきました。それから一〇年余が過ぎ、時代はコンピュータが主力の時代へと移っていきました。もう四〇歳を過ぎた私にとって、新しい機械に対応していくことになり苦労したことが思い出されます。今、学校現場は校内ネットワークが整備され、授業でも電子黒板にデジタル教科書とコンピュータなしでは成り立たない世界となりました。

子供たちを取り巻く環境も大きく変化しています。私たちが初任者であった頃、学校は荒れに荒れ、いじめに校内暴力や対教師暴力などが当たり前のようにマスコミをにぎわし、私たちはその対応に日々が忙殺されていました。一日の終わりに、杯を手に学校の正常化について激論を交わしていたことが懐かしく思い出されます。そして、今の子供たちはとくに、大きく荒れた状況はなくなりましたが携帯電話やスマートフォン、ゲーム機器といったメディアが彼らの生活に大きな影響を与える時代となりました。SNS等のインターネットを通していじめや犯罪が生徒指導上の大問題となっています。これら生徒



指導上の問題にはほぼ全てでメディアが関係しているといつて過言ではありません。今はもうこれらのメディアから子供たちを隔離することはできません。一部では学校への持ち込みを認めていこうとする動きさえあります。各学校では、これらメディアの危険性や正しい使い方についての学習をする機会を必ず設けています。これは現代の学校において大きな役割もありますし、今後とも進化しながら続けて行かねばならないと考えます。

しかし、ここで問題となってくるのが、これらメディアの管理です。いくら危険性を説き、正しい使い方を学んだとしても、まだまだ未熟な中学生です。自ら律していくのは難しいものと思われます。管理することができるはこれらを与えた保護者の姿勢のみなのです。「みんなが持っているから」「中学生になったのだから」「買つてくれたら一所懸命勉強するから」といった子供の願いに負けて買い与え、後は何をしているかわからない。最初はフィルターをかけていたのに「調べ物ができない」「大丈夫、僕を私を信じて」との願いにフィルターを外してしまいあとで後悔する。そんな保護者がいかに多いか。子供がメディアを使って何をしているのかを管理することができるは買い与えた保護者だけです。そして、これらについて、加害者になったとしても、被害者になったとしても全ての責任は保護者にあることを自覚するように教育していかねばなりません。

時代はこれからA-Iが主流となりSociety 5.0の社会へと進もうとしています。子供たちはこれら情報機器を正しく使いこなすことは必須です。だからこそ今、学校での情報モラル教育を強力に進めていくことと、保護者の情報機器の管理能力を育成していくことが両輪として強く求められているのだと痛切に感じます。

（全日中副会長・北海道登別市立緑陽中学校長）